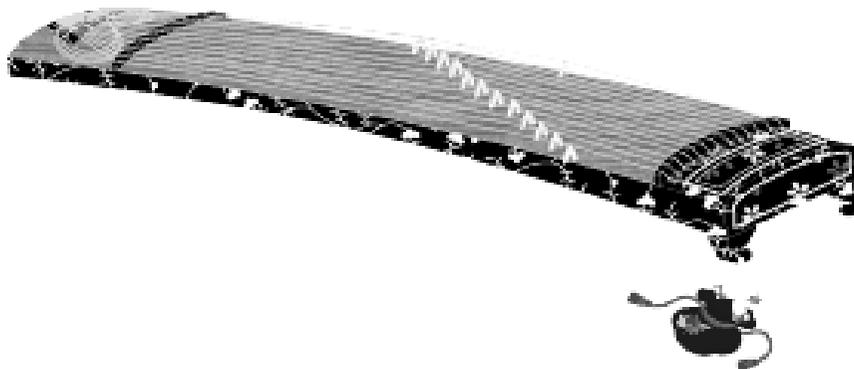


日本音楽部門 第34回発表会(県大会)

～ 箏 曲 ・ 能 楽 ～

曲 目 ・ 演 目 紹 介



(1) 安宅 (作者不詳) 名古屋市立名東高等学校

勸進帳で有名な安宅の関所。その関所を通り抜けた源義経一行を、関守である富樫の某が追いかけてきて、それまでの非礼を詫び、酒宴に誘います。

本日演じるのは、その宴席で弁慶が「延年の舞」を座興として舞った後、陸奥国へ落ち延びていく場面です。舞と謡とお囃子が一体となってストーリーが展開されていく様子をお楽しみください。

(2) 二面の箏と十七絃のための 炎 (作曲 水野 利彦) 光ヶ丘女子高等学校

この曲は、17絃の重々しい音階と13絃箏のトレモロから始まり、今後の展開や変化に期待を持たせる怪しさを醸しだしています。前半は、小さな火がしだいに激しい音を立てて、盛んに燃える炎の強さを感じさせます。後半は東洋風な雰囲気を漂わせ、17絃の突き押しと13絃箏の打手奏法で炎を囲みながら、人々が舞い踊る様子をリズム良く表現しています。人々の希望となる炎をイメージできるような演奏を心掛けたいと思います。

(3) ODYSSEY (作曲 新実 徳英) 愛知県立東海南高等学校

今回演奏します「オデュッセイア」は運命に翻弄されながらも、愛と勇気を胸に果敢に立ち向かう英雄オデュッセウスの大冒険を8パートに分かれた箏と十七弦が幾重にも織りなす多彩な音で表現した曲です。聴いてくださる皆様に、一筋の希望の光が届きますよう心を込めて演奏します。

(4) 春の一つ星 (作曲 江戸 信吾) 愛知県立衣台高等学校

春、明け方の南の空にと輝く一等星アークトゥルス。その遥かなる光が幾重にも表情を変えて力強いメッセージとなり、地上に降り注ぐ様を、箏と17弦の三重奏で表した曲です。白み始めた空が遥かなる光を柔らかくつつみ、次第に熱を帯びて輝く様子をイメージしながら、楽しんでお聴きください。

(5) 箏と十七弦による二重奏曲 (作曲 藤井 凡大) 愛知県立豊田高等学校

この曲は、箏と十七弦の音色の違いを活かしたり、時には似せたりしながら、速い旋律、やわらかな部分、軽さと力強さを次々と表現していく曲です。
まだ琴を習い始めて、一年にならない4人ですので、特にスタッカート部分は曲想をつけながら合わせるのに大変苦労しました。
気持ちを一つにして、心を込めて演奏したいと思います。

(6) サラズ マインド (作曲 菊重 精峰) 愛知県立豊田東高等学校

曲名にある「SARA'S」とは、「さらの心」という意味であり、「初心」を表しています。新しく清らかな気持ちで、「初心」を忘れず、楽しんで演奏してほしいという願いが込められた曲です。こだわり抜いた強弱が聴きどころですので、その部分をぜひ聴いてください。

(7) 龍星群 (作曲 橋本 みぎわ) 愛知県立鳴海高等学校

この曲は、アニメ「この音とまれ」の作中のオリジナル曲で、第1箏～第5箏・十七絃の6パート編成となっています。全体の特徴は、音の強弱や速さの緩急がはっきりしており、迫力のある曲となっています。最大の聞かせどころは十七絃のソロパートで、龍の鳴き声を思い起こさせ、これが曲名の由来となっています。ダイナミックさと繊細さが織りなす音の世界を、ぜひご堪能ください。

(8) 春の詩集 (作曲 牧野 由多可) 愛知県立半田高等学校

きびしい冬からようやく春が訪れる。銀雪は溶け、春に光を浴びて新たな生命が生まれる。暖かな日の光で花は咲き、小川の水はキラキラと輝く。小さな花たちの傍らには蝶が春の喜びをうたう。舞い上がる花びらはかぐわしい風に乗って次の命へバトンをつなぐ。そうした希望に満ちた詩曲です。それぞれが互いのパートを意識しあい、音の強弱と様々な技法で春の喜びと哀愁を表現します。私たちが部活を続ける中で関わってくれた全ての方に感謝し、箏曲と出会って今日まで同じ目標を掲げてきた仲間たちに出会えた幸せを音に託して演奏します。

(9) 北国雪賦 (作曲 長沢 勝俊) 菊華高等学校

東北地方に古くから伝わる雪のまつり「かまくら」と「ぼんてん」。第1楽章「かまくら」…雪空に水神様を祭り、その年の豊年を祈ります。ただ雪と光の静寂の中に無限に広がる様々な音の幻想。第2楽章「ぼんてん」…大きな御幣を神社に奉納する勇壮な行事です。雪に閉ざされた人々の、この日に懸けたエネルギーの高揚と魂の躍動。
雪と、それに深く関わりながら生きる人々の哀歓を描いた作品です。

(10) 星涼之賦 (作曲 川崎 絵都夫) 安城学園高等学校

箏の高音域のキラキラした音を、子供の頃夢中になって眺めていた星の輝きになぞらえて作曲された箏五重奏の曲です。本日は、「むづら星」(冬): プレアデス星団。和名は昴(すばる)。「シリウス」(冬): 冬の南東の夜空に輝く全天一明るい星、二つを演奏します。星々を眺めている時に心に沸き上がる様々な思いを託した曲ですので、ぜひ冬の星座を想像しながらお聴きください。

(11) 三つのフェスタルバラード (作曲 三木 稔) 名古屋市立菊里高等学校

この曲は箏四パートと十七絃で構成されており、三つの楽章でできています。曲名に“フェスタル”とあるように、まるで祭りのような賑やかさから、祭りが終わった後の甘く気怠い雰囲気までを、五パートの美しい重なりで表現します。三つの楽章が織り成す風景を楽しみながら私たちの“フェスタル”をお聴き下さい。

(12) 道灌 (作曲 宮城 道雄) 愛知県立江南高等学校

昭和11年に東京で太田道灌450年祭が催され、その記念曲として宮城道雄が作曲した曲です。太田道灌は江戸の地に最初に築城し、現在の大都市の礎を開いた武将です。江戸が日本の中心として栄えていた時代を偲びつつ、現在の首都・東京の繁栄を祝い、開祖である道灌をたたえた曲で、歌・独奏・合奏を自在に組合せ、変化に富んだ曲になっています。イメージを膨らませつつ、歌にも力を入れて練習してきました。どうぞお聴きください

(13) 螺鈿 (作曲 沢井 忠夫) 愛知県立一宮西高等学校

「螺鈿」は奈良時代から伝わる螺鈿細工の美しさを、一箏・二箏・十七絃の3パートで表現した曲です。 曲中にはさまざまな技法が多く使われています。光の角度によって姿を変える螺鈿細工のようすを思い浮かべながらお聴きください。

(14) 箏四重奏 まほら (作曲 菊重 精峰) 藤ノ花女子高等学校

この曲は、古代日本の首都として栄えた奈良をイメージして作曲された曲です。曲名の「まほら」という言葉は、「まほろば」の別称で、“素晴らしい場所”といった意味があります。箏3パートと十七絃で、緑の楽園とそこに吹く爽やかで心地よい風を表現します。ぜひ皆様の心の中の“素晴らしい場所”を思い浮かべながら聴いていただければ幸いです。

本日は、私たちの発表会（県大会）にお越し下さいまして、ありがとうございました。

この発表会のために、私たち部員一同は日頃の練習の成果が発揮できるよう努力を重ねてまいりました。これからも伝統の音楽を楽しみながら、部活動に励んでゆきますので、変わらぬ御支援をお願いいたします。

